おもちゃの図書館全国連絡会　相談事業ニュースレター

2026. 10. 30

おもちゃ図書館Q＆A

18号

発行者：特定非営利活動法人おもちゃの図書館全国連絡会
〒116-0014　東京都荒川区東日暮里2-25-11　電話03-6807-8813　FAX03-6807-8863　E-mail:renrakukai@toylib-jpn.org

テーマ　**遊びは生きる力**

子どもの成長にとって大事な「遊び」、楽しい遊びの時間を過ごしてほしいと祈っておもちゃ図書館を開館していることと思います。おもちゃ図書館の「遊び」や「遊びの日」についてご紹介します。

おもちゃ図書館の「遊び」と「うれしいおまけ」

おもちゃ図書館には、幼稚園や学校とはちょっと違う、地域のいろんな世代の人が集まります。赤ちゃんから高齢の方まで、障害のある人もない人も、一緒に遊んでふれあう時間の中で、たくさんの力が育まれていきます。子どもたちにとって、毎日の生活そのものが「遊び」で、遊びがそのまま暮らしの一部になっています。遊んでいる時間の中で、心も体もすくすく育ち、いろいろなことを自然と身につけていきます。

おもちゃ図書館は、訓練や療育の場ではなく、日常の中にある“ふつうの遊び”を楽しめる場所でありたいと思っています。障害のある子どもは上手に遊べなかったり、人や物と関わることが上手でなかったりするので、療育の場では「遊びの指導」が行われます。でもこれは、子どもにとっての本来の遊びではありません。遊びは誰かに指示されるのではなく、子どもたちが自由に、おもちゃを選んで好きなように楽しい遊びを体験できるのがおもちゃ図書館なのです。

気に入ったおもちゃで遊ぶ時、子どもたちはこれはなんだろう、これで楽しく遊んでみたい、どうやって遊ぶんだろう、こうすれば動く、動かせるんだということから始まり、目で見て楽しみ、耳で音を聞き、手で感触を確かめ、さらには手や指を使っておもちゃを操作したり、身体全体を動かすことにつながります。このように、子どもたちはおもちゃ図書館で楽しく遊ぶうちに、自然と発達が促されていくのです。これこそ、「おもちゃ図書館のうれしいおまけ」なのです。

そして、「わあ、楽しいねぇ」と子どもの満足感や達成感に共感して遊びの楽しさを倍増させるボランティアがいます。ボランティアとおもちゃで楽しく遊ぶことによって情緒の発達やコミュニケーション機能の発達も促されます。本人が 「あ～たのしかった」と心から思える満足感が、子どもの豊かな心を育て、生活の質を高めていくのです。





豊かな遊びをつくるための3つの大切なこと

1 自発的

たくさんのおもちゃから、自分で好きなおもちゃを選べます。誰かから指示されたものでなく、「やってみたい！」という自発的であることが大切です。

2 自律的

どのようにあそぶかという活動の過程、つまり遊び方を周囲の人間が決めるのでなく、子ども自身が決定することが重要です。

3 評価

子ども自身が遊びの評価をすること。あそび終えた子ども自身が、「ああ楽しかった」という満足感を伴って終わるのがあそびなのです。

自由に自発的にあそぶ中で、楽しみは倍増され、あそびの幅が広がり、やりたいことができた時の満足感は 何ものにも代えがたいものとなります。

子どもが安心して遊べる環境づくり



・やわらかな雰囲気…はいりやすい、やさしい声かけなど
・自由な雰囲気…騒いだり動きまわっても大丈夫、干渉や強制感がない
・楽しい雰囲気・・楽しい遊びがいっぱい、家にないおもちゃがいっぱいある

遊びの雰囲気を作ってみよう

・子どもと同じ目の高さで向き合って、ボランティアも一緒に遊んでみましょう。
・いろいろな遊び方を受け入れる姿勢で子どもの「やりたい」気持ちを見守りましょう。
・安全面に配慮しながら、適度な挑戦を支えましょう。
・その子にあったあそびをみつける…個々の興味関心や発達段階に合わせましょう。
・子どものあそびの発見や工夫を認め、共感する・・・うまく遊べた時や、どういう形であれ子どもが思うように遊べて満足している時には、子どもの発達状況に合わせて、子どもが喜ぶ方法でほめましょう。



おもちゃって面白い！

☆おもちゃ図書館のおもちゃは、ただ遊ぶだけではなく、
そこに集う「人と人をつなぐ」大切なコミュニケーション
ツールです。
「おもちゃで夢中になってあそんでほしい」
「豊かなあそびの世界を広げてほしい」
おもちゃにはそんな願いが込められています。
私たち、おもちゃの遊び手は思う存分おもちゃを楽しみ
ましょう。

～うまく遊べない時は～

障害のあるお子さんの中には、おもちゃに見向きもしなかったり、喜びもしなければ遊びもしないという場合もあります。
障害のあるお子さんと遊ぶ時、どのようなおもちゃを好きなのか、またどのようなおもちゃが苦手なのか保護者に伺ってみましょう。障害のあるお子さんは要求や感情を示すサインが弱かったり、ゆっくりだったりします。その子の声や表情、動きなど、小さな変化にも気づく力を養いましょう。小さなサインも見逃さず、確実に把握できれば、関心の対象や好きなおもちゃがわかってきます。また、発達段階と機能にあったおもちゃを選ぶことも大切です。その子の個性や意思を尊重しましょう。自分の意志で気に入ったおもちゃで遊んで、自分の望むやり方で遊びに熱中する時、「ああ楽しかった」という満足感・達成感が味わうことができるのです。

また、時には気持ちがのらない日もあります。周りの様子や天気、気温、ざわついた雰囲気など様々な要因が考えられます。ざわついた環境になじめない場合など、お子さんに合った空間づくりも必要でしょう。

「おもちゃ図書館」の魅力は、たくさんの「おもちゃ」と親子に寄り添う「多世代のボランティアさん」たちがいること!

「おもちゃ図書館」に初めて遊びにくる子どもたちのなかには、人見知り、場所見知りで大きな声で泣き、尻込みしたり、私たちボランティアが声をかけるとさらに大きな声でないたり……そんなときは、子どもたちの大好きな「おもちゃ」をみえるようにそっとおくと、べそをかきながら「おもちゃ」に手を伸ばし遊びはじめます。「おもちゃ」がもつ子どもの心をつかむ力を感じます。
一人でじっくりと遊ぶ「おもちゃ」と「ままごと」や「お人形あそび」「お店屋さんごっこ」など、ボランティアさんが一緒に遊び、コミュニケーションをとることで「お母さんになったつもり」「お店屋さんになったつもり」「お料理をつくって一緒にたべたつもり」と子どもたちは、想像の翼を広げ楽しさを何倍にもします。
初めて参加する保護者の方々も、ちょっとどきどきしながら参加してくるかもしれません。そんな時こそ、ボランティアさんたちのやさしい声かけで、安心し「居心地のよさ」を感じさせます。
「また、遊びに来たい!」と思う気持ちは、子どもたちの笑顔と「ボランティアの〇〇さんに会いたい!」という思いがつくります。

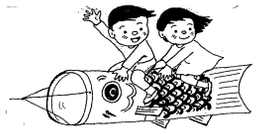
認定特定非営利活動法人おもちゃの図書館全国連絡会
理事長　鈴木訪子



遊ぶ姿も真剣



一緒に遊ぶと楽しさが倍に！！



おもちゃ図書館Q＆A

ご存じですか？

遊びの日

子どもにとって「遊び」は、呼吸をしたり食べたりすることと同じように自然なことであり、生活そのものです。「遊び」は、人と人との関わりやふれあいを通し愛情を感じ、人間関係を形成し、生きる力を育てるものです。

5月28日「遊びの日」（World Play Day）　国際トイライブラリー協会が提唱

「WORLD PLAY DAY～5月28日～遊びの日」は、いろいろな世代の人々がおもちゃ遊びやゲーム、伝承遊びやおもちゃ作りなどを通し、コミュニケーションを深めながら楽しい一日を過ごし、みんなで「遊び」の大切さや意義について再認識する日です。

特別なイベントを企画したり、たくさんの経費をかけたりして取り組むものではありません。家庭や学校、さらには職場でも、何でもしたいことをして大人と子どもがゆっくり楽しむ日なのです。
とにかく、みんなで一緒に遊び、「遊び」の楽しさを実感する日です。

1999年に第8回国際会議を日本で開催した際、当時ITLA会長だった、キム・フリーダ氏（元韓国トイライブラリー協会代表）が、「WORLD PLAY DAY」を設け、「あそび」の大切さや意義を再認識しようと提唱いたしました。それを受け、2001年イタリアで開催されたITLAのボードミーティングにおいて、5月28日を「WORLD PLAY DAY」に決定されました。
https://itla-toylibraries.org/home/world-play-day/



6月11日「国際遊びの日」（International Day of Play）

遊ぶことの大切さを国際的に啓発する「国際遊びの日」が2024年の国連総会において制定されました。毎年6月11日は世界各地でいろいろな遊びの取り組みが行われています。
※国連子どもの権利条約第 31 条にある「遊ぶ権利」への理解を深めることを目的とされています。

子どもにとって「遊ぶこと」や「休むこと」は、単なるわがままや贅沢ではなく、健やかに成長するために欠かせない大切な権利（基本的人権）として世界に認められています。この権利は、世界中すべての子どもたちに与えられなくてはなりません。

子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）は、世界中すべての子どもたちがもつ人権（権利）を定めた条約です。1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発効しました。日本は1994年に批准しました。

おもちゃ図書館でも「遊びの日」を発信し、世界中のこども達と共に楽しい遊びの場をつくっていきましょう。この日のための特別な経費やイベントは必要ありません。楽しい一日を過ごしてください。

相談事業担当者より

今回の「遊び」についてのテーマはおもちゃ図書館の活動を始めたばかりの方は勿論、長く関わっている方にも改めて振り返るきっかけになったのではないかと思います。私も楽しいからボランティアやめられないのよねと思いました。（和賀）

相談事業担当（青塚・川田・岸・山本・和賀）